

アワゴケの花

函館市 酒井 信

自宅の庭、通路に広がっていた見知らぬ繊細な植物、花のシーズンも終わりになった2018年10月になってようやく観察を始めた。早くから生育していたが、花や果実が目立たないためこのような時期になってしまった。花を探して歩き回っていながら、足元にある見かけない植物を観察もせず放置とは！との思いである。この植物、よく見ると緑色の、あるいは黒熟した果実がまだ多数付いており、簡単にアワゴケであることは判った。どのような花が咲くのかと思ったが、後述するように主だった図鑑に記述はあるものの花の画像がほとんどない。道内では珍しそうな種でもあり、そうであればあるほど花が見たくなるもの。本稿はこのアワゴケの花の観察と撮影の挑戦記である。

アワゴケについて

アワゴケ (*Callitriche japonica*) は日本全土に分布し、北海道では北海道南西部(梅沢2018)、渡島、胆振地方(原1992)とあり、道内ではそれほど見られるものではないのかもしれない。筆者は自宅で気付いて以後、別の函館市内2ヶ所で確認している。花も目立たず、路傍などにあっても見落としてきたのかもしれない。アワゴケ(以下、本種)の花は、雄花は雄蕊が1本、雌花は雌蕊が1本でどちらも花被はない。花の画像は大橋(2017)の雄花の写真、および長田(1999)の線画による雄花と雌花があるがわずかである。他の図鑑では果実が示され、梅沢(2018)、林ら

(1989)は写真、北村ら(1992)の線画、邑田ら(2013)の植物画がある。

本種は繊細で良く分枝し、所々から根を下ろし、地面を這い広がる。本種の生育の様子、および、よく成長した個体を図1、2に示す。



図1 アワゴケの生育状態 2021.6.18



図2 成長した個体(1目盛り1mm) 2021.8.3

アワゴケの花、撮影に挑戦

花に関する情報、特に画像は上記のようにわずか1枚、雄花の写真のみである。本種の果実は、近寄れば肉眼でも観察できる。しかし、花は花卉もなく小さく目立たないので気づきにくい。最初は様子も判らないので、